

うつ病

男性 18歳 受験生

主訴 気分が落ち込み、やる気が出ない。

現病歴 半年前より気分が落ち込み、うつ状態になる。彼の祖母が当院に長くかかっており、彼女が言うには、塾でいじめられたようで、それから塾に行きたがらない。それで気分もだんだん落ち込んできたみたいだと。今は何もやる気がなく、回りに人がいると何も出来ない。本人はいたって真面目で、あまり喋らない。現在、神戸の某医大の精神科にかかり、2週間に1回抗うつ剤や安定剤をもらっている。

所見 沈遅、左胸鎖乳突筋が硬化、火穴は特になし。

治療 扁桃処置、帯脈、右丘墟・上四瀆（筋緊張緩和処置）、自律神経調整処置、ネーブル4点。後でネーブル4点皮内鍼固定。

経過 5日のうちに3回治療したが、食欲が少しでた以外あまり変化なし。4回目の時に処方を変更した。脈が依然「沈遅」だったので、復溜、兪府、右丘墟・上四瀆に15分留鍼した。それと丘墟・上四瀆、自律神経調整処置。

翌日（5回目）来た時最初より良くなったと。そして脈をみるとなんと「沈遅」が消失していた。処置は同前処置。

彼はいったん神戸の親元に帰って9日後に再来院。このとき6回目。脈は良くなっており、やはり「沈遅」は消失、ほぼ平脈になっている。左胸鎖乳突筋も大分和らいでいる。本人は気分の落ち込みがない。食欲も出た、大分良くなっているという。処置はやはり留鍼して扁桃処置と自律神経調整処置。その後5日間毎日来院。全く気分が普段の状態になりよく喋る。こっちが聞かなくても自分の方から話してくる。食欲が出たので却って胃もたれがする。その後、神戸に帰って塾に行きだし、私が「いろんな模試を受けて、慣れた方が良い」などとアドバイスをしたら、彼は対外的な模試を幾つも受けたようです。ほぼ治癒したのではないかと思います。

考察 彼の症例は非常に大事な事を示しています。つまり「沈遅」、いうなれば腎虚で、体の副腎皮質系が疲れている時に、腎経の「復溜、兪府」に留鍼（15分）しただけで脈がガラッと変わり、自覚症も素早く好転した。これは治療した直後より翌日、これだけの変化が出たわけです。考えてみると、腎経は副腎を中心とする内分泌系に関係しています。腎経の留鍼をする事によって、内分泌の中核である視床下部に刺激を与え、そこから副腎皮質刺激ホルモンが出て、副腎皮質が活性化し、脈の変化と心身両方の賦活を促したのではないかと思います。

それともう一つ、丘墟・上四瀆の留鍼。これは反対側を使い、少陽経は錐体路系に効き目があるのを利用しましたが、よく調べてみると、これに関与しているのは大脳皮質の運動領と脳幹の網様体で、この網様体は種々の感覚情報を入力として受け、大脳皮質の全域を賦活して覚醒状態におくとされています。つまり、この丘墟・上四瀆を使ったことで、脳幹の網様体を賦活させて大脳皮質を覚醒させ、それ故に「沈遅」が消失し、気分が変わってきたのではないかと思います。